

◆視察研修◆

Aコース 福井県恐竜博物館

恐竜化石の一大産地である勝山市に建てられた世界三大恐竜博物館の1つ



＜参加人数＞ 21名

＜内容＞ 一行を乗せたバスが勝山市に到着し、行く先に恐竜博物館の銀色のドームが見えた時には、車内に歓声が上がりました。行楽シーズンということで、駐車場は、観光バスや家族連れの乗用車でいっぱいでした。参加者は、44体に及ぶ恐竜全身骨格や大迫力の恐竜ジオラマの他、地球46億年の歴史を物語る展示などを思い思いに楽しみました。視察後には、「ずっと来たかったので、参加できてよかった。見どころが多くて予想以上に楽しめた」「また家族連れで来たい」といった嬉しい声を耳にすることができ、夢とロマンがいっぱいの恐竜王国を満喫しました。

Bコース 福井県児童科学館（あそびの屋台会場）

年間50万人以上の来館者を数える、全国有数の科学館併設型 県立大型児童館



＜参加人数＞ 52名

＜内容＞ あそびの屋台会場への視察ということで、3コースの中で一番人気！ バス2台に分乗しての移動となりました。会場へ到着後に、「あそび」「工作」「体験ワークショップ」の各ブースにて出展者や地元の子どもたちと交流。また、参加者のうち希望者（半数近くの24名）が会場視察を1時間行った後、国の天然記念物および名勝に指定されている「東尋坊」に向かい、日本海に面した海食崖と夕日とのコントラストの中、テレビの主人公のような雰囲気を楽しみました。

Cコース 福井県こども家族館

「海・自然・環境」に対する理解を深め、親子・家族が触れ合える福井県嶺南地方唯一の県立大型児童館



＜参加人数＞ 4名

＜内容＞ 福井県こども家族館は、小浜湾に面した美しい場所に立地しており、クッキング工房やものづくり工房といった学習施設も完備する大型児童館です。館内は、身近な道具が大きな机や椅子になった可愛らしい設備でいっぱいでした。お買い物体験ができるショッピングエリアはこどもたちで賑わっていました。本物とそっくりの食材を集めて、お買い物するのですが、お会計には本物のレジを使っているのが驚きです。そして、上の階には、船をデザインした大型遊具「こども探検号」があります。一面には、青と白のボールで満たされたプールで、こどもから大人まで大人気でした。

◆あそびの屋台◆

- 日 時 11月11日(日) 13:30～15:30
- 場 所 福井県児童科学館(エンゼルランドふくい)
- 内 容 全国各地の児童館から「あそび」、「工作」、「体験ワークショップ」が大集合!!
児童館ガイドラインの趣旨をふまえた最新の遊びのプログラムを紹介しました。

出展団体名	出展タイトル
公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会 札幌市児童会館・ミニ児童会館	～さっぽろプレゼンツ工作会～ 『キラ☆ピュン↑ロジック♪』
岩手県立児童館 いわて子どもの森	おとな～るラボ「おとみえ～る」「こえかわ～る」
T E A M東京	遊び王決定戦!
新潟県立こども自然王国	「どこでもアドベンチャー～!」
	「生き物探しポイントラリー」
富山県こどもみらい館	手ざわりを楽しもう
いしかわ子ども交流センター	こちら 輪ゴム鉄砲獵友会 山賊キッズ養成所
T E A M金沢	走る! うごく! 話せる! 紙コップ♪
愛知県児童総合センター	つめつめいっぱい! 紙コップタワー
京都やんちゃーず	いたずらラリー
さぬきこどもの国	でんでん太鼓



◆交流会◆

越前ガニや越前おろしそば、ソースカツ丼、いちほまれなど、福井県ならではの自慢の食に舌鼓を打ちながら全国の仲間との交流を深めました。

また、山内廣志さん（第3分科会講師）による「パコーン演奏」のほか、全国の児童厚生員有志で結成された「ウクレレうかれ隊」による演奏が行われ、大いに盛り上がりました。



分科会Ⅰ・Ⅱのまとめとして、各分科会の検討結果の報告を行いました。

第1分科会

【児童館と児童クラブのあり方】

『子どもたちの放課後の世界を広げよう！～児童館・児童クラブの連携を通して～』

第1分科会のテーマは、「子どもたちの放課後の世界を広げよう！」ということで、子どもたちの自由な時間を楽しく豊かにするために、他の児童館や児童クラブとの連携を模索しました。

各施設で行うイベントについての不安とか、各施設は毎日どんなことをしているのか、他の施設との子ども、職員との交流について、いろいろ心配されている方も多いかと思います。それについて話し合いました。

昨日は、連携事業の取組みの現状について話し合いました。時間のない中いろんな苦労話などを皆さん発表していただき、非常に良い話し合いができました。そして、本日はおすすめプランで、ぜひこういったプランで勉強をやってみたいということで、話し合いを行ったところ、たいへん盛り上がりまして素晴らしいプランが出来上がりました。

ここの皆様にお見せしたいところですが、できないのが残念です。また何かの機会がありましたら、ぜひご覧いただきたいと思います。

第2分科会

【子どもへの支援策】

『職員の関わりを振り返る！～マルトリートメントの視点を頼りに～』

マルトリートメント～不適切な関り、子どもの健全な育成を妨げる関りに対する気付きと対処などを、検討しました。それは児童館・児童クラブに来所する子どもへの関り方について、マルトリートメントに気付き・気付かせる工夫、マルトリートメントをしてしまう親への支援についてでした。

短い時間の中、児童館・児童クラブでのあるある～を再現しながら、そのマルトリートメントに気づき、その対処について話し合いました。グループワークでは非常に盛り上がり、皆さんたくさんの気付きがあるとのこと、さすが児童館・児童クラブの先生方は子どもと真摯に向き合っておられ、いろんな対処を考えておられるんだな～と改めて気付かされました。これを日々の業務に活かし、まい進していかれることと思います。

第3分科会

【体験活動を活かそう】

『五感に響け！～パコーンの魅力まるごと体験～』

『パコーン』とは!? 福井県大野市発祥の五感で楽しむ打楽器～紙管を使い簡単に作れる、自由に絵や文字を書きオリジナル作品が作れる、ものづくりを通してコミュニケーションを図れる。これがパコーンです。

“パパ～ン”（実際のパコーン音）、これから子どもたちと楽しんでいきましょう！

（以下、パコーンによる手締めを紹介）「それでは皆様お手を拝借～「いよ～っ、パパパン パパパン パパパン パン」ありがとうございました。

第4分科会

【さらなるスキルアップ】

『現代の子どもとの関わり方～私たちにできる声かけ～』

子ども達の関わり方で困っていることや悩んでいることで、どんな対応をしていますか？

専門職としての声掛けを検討、自分自身を知り、子ども達の視点に立つ、子どもと関わる職員として必要なことは？

1日目はそれぞれの情報交換ということで、皆さんが困った場面を話し合いました。その後講師による「プラスの言葉、子ども達に響く言葉、マイナスの言葉、子ども達をさらに嫌な思いをさせる言葉」の講義を受け、最初の情報交換からマイナスの言葉をプラスにできないかという考えについて検討しました。

今日の2日目ですが、講師と検討結果について質疑応答を行いました。その中で私たちが専門職として、まず結果ではなく経過をしっかりと見てあげる、子どもの表情を見てあげる～そのようなことを学びました。私たち職員はお母さんでもなく隣のおばちゃんでもない。その私たちの声掛けにより、皆さん、今日学んだことを今後活かしていきたいと思います。

第5分科会

【あそび】

『あそびを通して健全育成 ～いろいろあるぞあそびユッフェ～』

子どもたちのあそびたい気持ちが湧き出すあそびの支援とは、どのようにしたらよいか、2日間話し合い、遊びの体験を通じて導いていきました。

1日目は講師による「遊びを作る、生活を作る」というテーマの講演を聞き、子どもたちが自由で、ありのままの自分でいられる場所、自由の中にも約束を守って子どもたちと話し合い、環境を作っていく。その中から子ども達が自然と遊びを見つけ楽しんでいく、職員は子ども達が自由に遊べるようにあそびの空間を整え、あそびの環境を作る役割を担っているということに、今回のテーマのヒントがあると感じました。その後グループワークに移り、「その場ですぐできる遊びを考える」というテーマで、グループ内で話し合った後全体で発表し、一番やってみたい遊びを投票、多かったものを2日目の冒頭、みんなで遊んでみることにしました。

2日目は、前日のグループワークで投票が多かった遊びを、皆で実際にやってみました。その後「あそびユッフェ」という名のとおり、企画委員が用意した多くのクラフトやゲームを、時間いっぱい、多く体験してもらいました。

2日間を通して、子どもたちの遊びたい気持ちが湧き出す支援とは、私たち職員が遊びの空間を整え、遊びやすい環境、雰囲気作りを心がけ、また、自らがあそびの体験を通じて、遊びの大切さを伝えていくことが大切だと、つるつるいっばいのあそびの体験から、皆さんが感じとったものと思っています。

第6分科会

【自己肯定感を育む】

『自己肯定感を高めよう～あなたは子どもにとって意味のある大人ですか～』

自己肯定感とはどういうものか、自己肯定感が子どもの発達にどういうふうに影響するのか、自分自身の自己肯定感を知ることの大切さ、子どもの自己肯定感を育むために私たちができることを学びました。また講話やディスカッションを通じて、2日間皆さんと勉強しました。

1日目には自己肯定感とはそもそも何なのか、いろんな説がありますが講師の指導のもと定義を理解することができ、2日目には自己肯定感について児童館・児童クラブで注目することの意味、また、取り組みを成功するためには、どのような対応が必要かということ学ぶことができました。

この2日間を通して、児童館・児童クラブで自己肯定感に注目し、これから参加された皆さんが子どもの発達段階に応じて、より自己肯定感を高めていける支援のノウハウを、お土産に持って帰れるものと思います。

第7分科会

【地域連携】

『地域とコラボ！ ～児童館が地域とともに生きるためには？～』

地域連携といっても、とらえ方や取り組み方は色々あるかと思います。

- ・イベントとしての地域連携
- ・地域密着型児童館の取り組み
- ・活動の活発でない児童館の現状と展望
- ・地域住民と児童館との関り

これら4つのテーマについて、それぞれ分科会担当児童館の事例発表の後、地域連携に関してグループ討議を行いました。

1日完結型の分科会のため非常に限られた時間の中、参加者の皆様の地域連携に関する様々なご意見や、参考事例を集めることができました。この分科会の成果を持ち帰っていただき、各児童館の地域連携の発展のために役立てていただけたことと思っております。

第8分科会（企画：TEAM金沢）

【保護者支援】

『困っているな、困ったな…保護者支援について考えよう！』

育児不安や心にゆとりのない保護者が増えている現代、保護者の気持ちを理解しながら支援を行うにはどうすればよいか、子どもに関わる人の思いや現状を議論し、すぐにできる支援を見つけ、心に響く言葉、キャッチフレーズを見つけました。出来上がった6つのキャッチフレーズを今から発表します。

「受け止めよういつも子どもがまんなか！」 「保護者のほっと♡ステーションになろうよ！」

「丁寧なれんこん支援」 「子育ては一人じゃないよ」

「心関線あゆみ 心にゆとり～関心を持って線つながる～あゆみよる」

「子育てはお互いさま～子どもの力を信じ保護者に伝え続けよう」

このキャッチフレーズが、少しでもこれからの皆様の活動の力になることを願っています。

第9分科会（企画：TEAM愛媛）

【多様な利用者支援】

『ちょっと気になるあの子について考えよう！ ～ダイバーシティ戦略2018』

第15回えひめ大会で児童館ダイバーシティ宣言を行いました。子どもを取り巻く環境は時代とともに多様化しています。児童館としてどのように柔軟に取り組んでいけるか、LGBT、貧困問題、言葉や文化のちがいを三つのテーマに分けてグループ討議を行いました。すると異なるタイトルでしたが、ともに共通する三つのキーワードが出てきました。

まず一つ目は見守る他者を増やすことです。我々はあそびのプロであり、あそびを通して地域、人を巻き込んでいくことができます。また、コーディネーターのプロでもあります。地域の資源を活用して見守る他者を増やしていくことができます。

二つ目はフラットです。フィルターをかけず、フラットに迎え入れる空間を作ることができます。LGBTや貧困問題、言葉や文化のちがいがあっても、フラットに迎え入れられる、そんな児童館作りを目指していきます。三つめは専門性を深めていくことです。専門職として児童厚生員・児童クラブ支援員は誇りをもって、発信する役割を担うために、今後も多種多様な事例に触れ情報を交換していきたいと思います。私自身児童館で育ってきた子どもです。今職員として働いています。誰でもフラットに迎え入れる児童館が僕は大好きです。これからも頑張っていきたいと思います。

第10分科会（企画：TEAM神戸）

【障がい】

『発達がアンバランスな子の応援団になるために』

支援者が気になる子どもは、実は子ども自身が一番困っています。子どもへの適切な援助、そして保護者への支援について、みんなと一緒に考えてみました。

1日目は乳幼児親子、小学生の2つのロールプレイを参加者に見てもらい、自分が選択した内容に分かれグループワークにより、アプローチのポイントを出しあい、発表する形をとりました。

2日目は神戸の取組みを紹介し、講師からのビデオメッセージ、グループワークなどで、困った子ではなく、改めて困っている子なんだという再認識をして、最後は1人の応援団だとして、明日からできる宣言という形で、参加者一人一人に宣言を出しあっていただきました。

小さなことかもしれませんが、2日間を通じ明日から取り組めるヒントを得ていただいたと思っています。

第11分科会（企画：TEAM京都）

【ソーシャルワーク】

『児童館・児童クラブのソーシャルワークに臨む ～1000本ノック事例版～』

児童館・児童クラブにおける個別事案のケースは多種多様です。分科会では多様な福祉課題を抱えたケースの事例を、多くの皆さんで検討する形式で、児童館・児童クラブだからこそできること、どういった支援が必要なのかをグループで話し合いました。話し合いの中では、例えば、午前中に中学生が学校に行けない、行かない子がやってきた、さあどうしますか～とのことで議論を進めました。やはり学校の支援とは違う児童館の独自性は何だろうかとの視点、ただの逃げ場になっているのでは、いやそこが居場所なのか、そこに専門性や児童館のスキルの何が必要かといった話が、たくさん出されました。その中でキーワード、受け止める、ただ話を聞く、つなげる、つなぎ役になる、いろんなことがありのままにいられる～が出てきました。最後に、児童館のソーシャルワークとは何だというところでグループワークをし、ただそこで受け止めているだけでなく、いろんなソーシャルワークとしての支援があること、地域にわかりにくいところで、何か良い言葉で表現したいなどのことで、全世代をつなぐ対応とか電線であるとか、いろんなワードが出てきました。

私たちが子どもや子どもの家族を含めて一人じゃないよ～と思えるところに支援をする、そこに専門性があると思います。同時に私たちも、時には第一線を越えながら福祉課題に食らいつくことがあります。私たち自身も一人ではないのだ、皆悩みながら困った時、迷ったとき、子どもの最善の利益とは何かということを考えながら、迷いつつも実践をしているんだとを感じる場になりました。引き続きいろんな話ができたらと思っています。



◆閉会式◆

全国発議

社会情勢の変化のなかで、児童館は児童福祉施設として地域から期待される役割が増大しています。この地域の期待に応えるために誕生したのが、平成 23 年 3 月の「児童館ガイドライン」でした。

発出から 7 年。更に子どもを取り巻く環境が変化する中、児童館ガイドラインが今年 10 月 1 日に改正されました。これにより、私たちは誇りと自信をもって、児童館の持つ可能性を最大限に発揮できると確信しました。

特に、子どもの権利擁護を中心に据えた児童福祉法の理念は改めて、新ガイドラインにおいても礎とされており、児童館が大事にしてきた「子どもの主体性」「子どもの意見表明」の重要性が語られています。今後ますます、子どもたちの存在を大事にする社会の風土づくりに児童館は寄与していくことが期待されています。

また、9 月には新・放課後子ども総合プランが発表され、放課後児童クラブの量と質の向上が期待されています。

児童館・児童クラブが、全ての子どもたちの居場所として機能できるよう、職員の更なる資質向上と専門性確立を目指します。

平成 30 年 11 月 11 日

全国児童厚生員研究協議会

第 16 回全国児童館・児童クラブふくい大会参加者一同





第16回全国児童館・児童クラブふくい大会実行委員会

副委員長 八 杉 藤志美

第16回全国児童館・児童クラブふくい大会の閉会に当たりまして、一言ご挨拶申し上げます。

10月に開催されました福井国体の興奮が冷めやらぬ、ここ「ふくい」の地に、全国各地から大勢の皆様が参加してくださり、ふくい大会が盛大に開催できましたことに厚くお礼申し上げます。

二日間の研究協議で十分な話し合いができたでしょうか。また、全国の仲間との交流を深めることができたでしょうか。二日間の大会の様子を見ておきますと、笑顔の中にも真剣に活発に意見交換する皆様の意気込みを感じることができました。再開を喜び合う姿や交流会で和気あいあいと話す深い絆に感動さえ覚えました。私にとっては初めての全国大会でしたが、全国各地の多様な状況や参加者の皆様の悩みや情熱を知ることができ、たいへん意義ある大会でした。福井県内からの参加者の皆様も私同様に意義深い二日間だったと思います。

福井県は、ある統計によりますと「幸福度日本一」の県です。小中学生の学力・体力はトップクラス、三世代同居の割合も高く、離婚率も低い。子育てしやすい県ですが、全国にある問題は福井にもあります。多様な子どもたちにどのように関わっていくのか、日々迷いながら悪戦苦闘しています。そのような中、この大会を福井で行えたことは、福井県の児童館、児童クラブにとって大変幸せでした。この大会で得た財産を明日からの活動に活かしていきたいと思います。

子どもの育成というものは「答えのない世界で、答えを追い求めていくようなもの」ではないでしょうか。私たちの仕事というものはそのように難しいものだと思います。

先ほど、次回大会は京都で開催することが決まりました。全国から参加して下さった皆さま方も、福井大会で得た財産を各地に持ち帰り、実践し、また、二年後に京都で会いましょう。

次回大会も、皆様方のご支援で盛大に開催され、全国の児童館・児童クラブが益々発展することを祈念いたしまして、第16回全国児童館・児童クラブふくい大会を閉会させていただきます。皆様、本当にありがとうございました。



◆ふくい大会振り返り◆

第 16 回全国児童館・児童クラブふくい大会各種会議一覧表

会議名	実施日	場 所	参加人員	会議名	実施日	場 所	参加人員
第 1 回企画委員会	H29. 6. 1	福井県児童科学館	60 名	第 3 回企画委員会	H30. 3. 8	福井県児童科学館	55 名
				第 3 回実行委員会			
第 1 回実行委員会	H29. 6. 7	福井県児童科学館	22 名	第 4 回企画委員会	H30. 5.23	福井県児童科学館	65 名
第 1 回地区リーダー会議	H29. 6.28	福井県児童科学館	14 名	第 4 回実行委員会		福井県児童科学館	22 名
第 2 回地区リーダー会議	H29. 9.15	福井県児童科学館	14 名	第 5 回実行委員会	H30.10.18	福井県児童科学館	22 名
臨時地区リーダー会	H29. 9.26	福井県児童科学館	13 名	第 6 回地区リーダー会議	H30. 5.15	福井県児童科学館	16 名
第 1 回企画委員会			63 名				
第 2 回実行委員会	H29.10. 3	福井県児童科学館	22 名	第 7 回地区リーダー会議	H30. 6.29	福井県児童科学館	29 名
第 3 回地区リーダー会議	H29.11.17	福井県児童科学館	15 名	第 8 回地区リーダー会議	H30.10.14	福井県生活学習館	60 名
第 4 回地区リーダー会議	H29.12.22	福井県児童科学館	14 名	第 9 回実行委員会	H31. 2.21	福井県児童科学館	名
第 5 回地区リーダー会議	H30. 2.16	福井県児童科学館	60 名	第 9 回地区リーダー会議			名

❖地区分科会打合せ



❖地区リーダー会議



❖企画委員会



❖実行委員会





【福井新聞】平成30年（2018年）11月11日（日）

第16回全国児童館・児童クラブふくい大会（福井新聞社後援）が10日、福井市の県生活学習館で開かれた。

キレる子に考える力を

福井で全国児童館大会

分科会や講演 700人情報交換



基調講演で客席を沸かせたお笑いコンビ「バックンマッくん」

10日、福井市の県生活学習館

活学習館で始まった。11日まで約700人が情報交換し、子どもや子育ての支援の仕方を考える。県内では初開催。全国の児童館・児童クラブの職員らが参加し、初日は11の分科会で話し合った。

子どもへの声掛けを考える分科会で、スクールカウンセラーを務める県立大看護福祉学部の吉澤一准教授は「キレる子どもに足りないのは考える力」と指摘。子どもの質問に答えるのではなく、どう考えているのかを尋ねた

り、子どものネガティブな言葉がポジティブな言葉に言い換えて返したりして、前向きなコミュニケーションに導く手法を助言した。基調講演は、お笑いコンビ「バックンマッくん」のバトリック・ハランさんと吉田真さんが子育てについて軽妙なトークを繰り広げた。2児の父のハランさんは「アメリカの子は積極的でコミュニケーションが上手。日本の子どもは最初上手なのに、中学生になると質問が出なくなる。親として、教育者として、コミュニケーションは楽しいという概念を自らの行動で示してほしい」と呼び掛けた。11日は坂井市の県児童科学館などを視察、最新の遊びのプログラムを学ぶ。（岩城一彦）

児童館や児童クラブ職員…

子ども支援関係者集結



子育てについて話をするバックンマッくん＝福井市の県生活学習館で

子どもや子育てへの支援のあり方を考える「第16回全国児童館・児童クラブふくい大会」（県児童館連絡協議会、七十五人が参加。米田出身の児童健全育成推進財団など主催）が10日、福井市下六条町の県生活学習館（ユー・アイふく）で開かれた。バックンマッくんが、

いでは始まった。十一日まで、全国から集まった児童館や児童クラブ職員、研究者ら約

全国大会 バックンマッくん講演

「子育て」をテーマに基調講演した。福井に二年間ほど住んだことがあるバックンは、休みの日に子どもと坂井市のエンゼルランドふくい（県児童科学館）で遊んでいたことを紹介し「福井は東京と違い、山や海に囲まれ自然の中で学べるものが多くある」と強調。マッくんは「いろんな活動や遊びを小さいころから子どもにさせることで、大きく成長する」と語った。開会式では、大会実行委員会の欠戸郁子委員長が「分科会で活発な議論をして、子どもを支援する活動に役立ててください」とあいさつした。子どもの関わり方や遊びなど十一テーマの分科会があり、参加者は熱心に議論していた。十一日は引き続き分科会をし、エンゼルランドふくいの視察もある。（大健太郎）

【日刊県民福井】

平成30年（2018年）11月11日（日）

連携で放課後の豊かな体験提供



児童健全育成事業を推進するため、全国の児童館や放課後児童クラブの職員や放課後児童クラブの場を設け、意識と資質の向上を図る第16回全国児童館・児童クラブふくい大会は11月10、11の両日、福井市で開かれた。11のテーマで実施された分科会の中から、児童館と児童クラブの連携について考えた分科会の内容を紹介する。

全国児童館・児童クラブふくい大会から

分科会・福井市の事例報告

放課後の自由な時間 ことも多い。を子どもたちにとって 第一分科会のテーマより楽しく豊かな時間は「子どもたちの放課後の世界を広げよう」にする。そうしたい思い児童館と児童クラブのさまざまな取り組みを進める中、他の児童館や児童クラブとの連携が、遊びや活動のさ緒に何かできないか、子どもたちや職員同士代表者が実施した。

3クラブが 児童の人間関係広がる 合同運動会

和田児童クラブのあ 年生、和田児童クラブが2年生・3年生、和施する中、交流事業とは、たんぼ児童館内田第2児童クラブが3して行っていることがのたんぼ児童会、単独設置の和田児童クラブ、和田第2児童クラブの三つの放課後児童クラブがある。それぞ

中学校区内の 児童館が交流 進学への期待感高め

児童館と児童クラブの連携について考えた第1分科会

が交流を持てたらしい。会。当日は児童館の自感や育むこと、他館の職員の子ともたちへの接し方を学ぶことなど、場所を問わずに編成して競技を進める。各館の職員が役割を分担して準備し、3クラブの児童館、放課後児童クラブによる事例報告と全職員が参加するリレーに展開。事例報告は同一も実施している。

児童館を核に 地域への愛着育む 多彩な交流活動

ひまわり児童館・もみじ児童館・くるみ児童館では、子どもたちを主体性を育むことを目指している。もみじ児童館では、みじ児童館・くるみ児童館・ひまわり児童館で、同館内で実施するさまざまな人たちが通る活動を実施して、児童の放課後児童クラブ、公民館などと連携している。こうした取り組みを通して、子どもたちの意欲や充実感が高まることに、地域を大切に思っていることができたことなどの成果を紹介。これらに加えて、児童館や放課後児童クラブの重要な役割を地域に示すこともできたとした。

◆実行委員・企画委員名簿◆

【実行委員会】

	役 職	氏 名	所 属
1	委員長	欠戸 郁子	福井県児童館連絡協議会 会長（福井県児童科学館 館長）
2	副委員長	千葉 雅人	全国児童厚生員研究協議会 会長
3	副委員長	八杉藤志美	福井県児童館連絡協議会 副会長（福井市児童館連絡協議会 会長）
4	委 員	阿南健太郎	一般財団法人児童健全育成推進財団 総務部長
5	委 員	有賀 計子	福井県健康福祉部子ども家庭課 課長
6	委 員	重森 正雄	福井県児童科学館子ども支援課 【企画委員長】
7	委 員	齋藤 常夫	福井市もくせい児童館 館長 【企画委員代表（福井地区）】
8	委 員	武川ひろみ	坂井市坂井木部児童館 厚生員 【企画委員代表（坂井地区）】
9	委 員	幅岸 清美	大野市児童館 館長 【企画委員代表（奥越地区①）】
10	委 員	中道 弘美	勝山市児童センター 総括所長 【企画委員代表（奥越地区②）】
11	委 員	中川 利晴	鯖江市曲木児童センター センター長 【企画委員代表（丹南地区①）】
12	委 員	浅井 純一	越前市児童館・児童センター 館長 【企画委員代表（丹南地区②）】
13	委 員	荒木 良徳	福井県こども家族館 厚生員 【企画委員代表（嶺南地区）】
14	委 員	前田 廣子	元大野市児童館 館長
15	監 事	中畠 幸子	福井県児童館連絡協議会 会員（福井県こども家族館 館長）
16	監 事	木村 愛子	福井県みらい子育てネット母親クラブ連絡協議会 会長

【企画委員会】

	役職・分科会	氏 名	所 属
1	企画委員長	重森 正雄	福井県児童科学館子ども支援課
2	第1分科会 （福井地区）	齋藤 常夫	福井市もくせい児童館 館長
3		長谷川和子	福井市さつきじどうかん 館長
4		小林 清直	福井市とちのき児童館 館長
5		八杉藤志美	福井市くすのき児童館 館長
6		吉岡 眞代	福井市あさがお児童館 館長
7		渡邊 敦子	福井市くるみ児童館 館長
8		筆島 幸枝	福井市とまと児童館 館長
9		中村 浩美	福井市和田児童クラブ 支援員
10		南 智仁	福井市社児童クラブ
11		田村祐紀恵	福井市社会福祉協議会 担当
12	第2分科会 （坂井地区）	武川ひろみ	坂井市坂井木部児童館 厚生員
13		中嶋 智恵	坂井市兵庫児童館 厚生員
14		下田美穂子	坂井市池上児童館 厚生員
15		川畑久美子	坂井市城北児童館 厚生員
16		桑野 佳世	坂井市春江児童館 厚生員
17		出店 理成	坂井市子育て支援課 主事
18	第3分科会 （奥越地区①）	幅岸 清美	大野市児童館 館長
19		今井 智子	大野市西部児童センター 厚生員
20		江端亜由美	大野市西部児童センター 厚生員
21		大川貴美代	大野市南部児童センター 厚生員
22		宝居 貴子	大野市東部児童センター 厚生員
23		泉脇真由子	大野市東部児童センター 厚生員
24		高村 重美	大野市北部児童センター 厚生員
25		松田 美保	大野市和泉児童センター 厚生員

26	第4分科会 (奥越地区②)	中道 弘美	勝山市児童センター 総括所長
27		瀧本 有紀	勝山市成器西児童教室 厚生員
28		吉田 縁	勝山市村岡児童教室 厚生員
29		佐々木寿代	勝山市北郷児童教室 厚生員
30		齋藤 幸恵	勝山市成器南児童教室 厚生員
31		大久保美由紀	永平寺町松岡児童館 厚生員
32		和田 育実	永平寺町志比児童館 厚生員
33		清水千恵美	永平寺町志比児童館 厚生員
34		田原喜代美	永平寺町上志比児童館 厚生員
35		黒川 浩徳	永平寺町子育て支援課 参事
36	第5分科会 (丹南地区①)	中川 利晴	鯖江市曲木児童センター センター長
37		川西 千鶴	鯖江市水落児童館 厚生員
38		山岸 純子	鯖江市平井児童センター 厚生員
39		福岡 裕子	鯖江市有定児童センター 厚生員
40		鈴木 優花	鯖江市石田児童センター 厚生員
41		市原実千代	鯖江市柳町児童センター 厚生員
42		上野 正枝	越前町朝日児童センター センター長
43		田邊 香織	越前町宮崎児童館 館長
44	第6分科会 (丹南地区②)	浅井 純一	越前市児童館・児童センター 館長
45		若宮 博子	越前市神山児童館 厚生員
46		関 理恵	越前市吉野児童館 厚生員
47		田中 純子	越前市国高児童センター 厚生員
48		苅部 弘美	越前市味真野児童センター 厚生員
49		小出 順子	越前市南中山児童館 厚生員
50		長谷川幸世	越前市服間児童館 厚生員
51		大西のり子	南越前町南条児童館 厚生員
52		木津 尚美	南越前町河野児童館 厚生員
53	第7分科会 (嶺南地区)	荒木 良徳	福井県こども家族館 厚生員
54		伊部 悦子	敦賀市敦賀児童館 館長
55		奥村 佳子	敦賀市松原児童館 厚生員
56		岡本 紗季	小浜市子ども未来課 主事
57		河合美恵子	美浜町南市児童館 厚生員
58		嶋田 悠人	高浜町第一児童館 主事
59		今筋 平	若狭町福祉課 主事

【事務局】

	役 職	氏 名	所 属
1	事務局長	木崎 直哉	福井県児童科学館 副館長
2		高橋 茂樹	福井県児童科学館子ども支援課 課長
3		石丸 如伸	福井県児童科学館利用サービス課 課長補佐
4		杉本 千明	福井県児童科学館利用サービス課 グループリーダー
5		生水 良治	福井県児童科学館利用サービス課 児童支援員
6		村田 弘孝	福井県児童科学館子ども支援課 グループリーダー
7		河合 巧磨	福井県児童科学館子ども支援課 児童支援員
8		川口由理子	福井県児童科学館子ども支援課 児童支援員
9		高木 美咲	福井県児童科学館子ども支援課 児童支援員
10		川越あいみ	福井県児童科学館子ども支援課 児童支援員
11		松永 朋子	福井県児童科学館子ども支援課 児童支援員
12		伊藤 信智	福井県児童科学館子ども支援課 児童支援員
13		月田千栄子	福井県児童科学館子ども支援課 児童支援員
14		橘田実寿恵	福井県児童科学館子ども支援課 児童支援員

◆協賛をいただいた企業・団体◆

- ・ 上屋敷工業株式会社
- ・ 株式会社福井村田製作所
- ・ 株式会社ダイードリンコ北陸
- ・ 江崎グリコ株式会社
- ・ 清川メッキ工業株式会社
- ・ 三和電気土木工事株式会社
- ・ 有限会社タキダエンタープライズ
- ・ 株式会社ヒューマン・デザイン
- ・ 福井県民生活協同組合
- ・ 福井放送株式会社
- ・ 北陸電力株式会社福井支店
- ・ 株式会社ユアーズホテルフクイ
- ・ 株式会社アイビックス
- ・ 株式会社グリーンシェルター
- ・ 学校法人福井仁愛学園
- ・ 株式会社 P L A N T
- ・ 吉水建機株式会社
- ・ 株式会社ジャクエツ福井店
- ・ 株式会社福井眼鏡
- ・ 株式会社ホリタ
- ・ 寺岡オートドア株式会社福井営業所
- ・ 株式会社福井テレビ開発
- ・ 高井不動産株式会社
- ・ 株式会社法美社
- ・ ダイードリンコ株式会社
- ・ 小川印刷株式会社
- ・ 斉藤設備機工株式会社
- ・ 株式会社ジャパンビバレッジウエスト福井支店
- ・ 轟産業株式会社
- ・ 福井キヤノン事務機株式会社
- ・ 株式会社福井新聞社
- ・ 福井テレビジョン放送株式会社
- ・ 株式会社マインドアンドサウンドライフ
- ・ ラインズ株式会社
- ・ 株式会社 F B C アドサービス
- ・ 株式会社日本旅行福井支店
- ・ 株式会社福井新聞 P R センター
- ・ 株式会社みつばち
- ・ 有限会社谷川商会
- ・ 第一ビニール株式会社
- ・ 福井ひかりのくに社・出口書店
- ・ 株式会社高島松文堂
- ・ 株式会社福井銀行春江西出張所
- ・ 株式会社ほくつつ福井支社

(順不同)



第 16 回全国児童館・児童クラブふくい大会 報告書

平成 31 年 3 月発行

〔発行〕 第 16 回全国児童館・児童クラブふくい大会実行委員会

事務局

〒919-0475 福井県坂井市春江町東太郎丸 3 - 1

(福井県児童科学館内)

TEL : 0 7 7 6 - 5 1 - 8 0 0 0

FAX : 0 7 7 5 - 5 1 - 6 6 6 6

E-mail : kenjiren@angelland.or.jp

<http://www.fb.me/jidoufukui>

<http://www.facebook.com/jidoufukui>